

2008



J・A・C

千葉支部だより

平成 20 年 9 月 発行

社団法人 日本山岳会 千葉支部

発行者 篠崎仁

編集者 結城純一

(第 4 号)

北海道支部との交流山行 大雪山旭岳



期日 : 2008 年 9 月 11 日 (木) ~ 13 日 (土)

場所 : 大雪山旭岳

参加者: 芳賀孝郎、芳賀淳子、赤井一隆、篠崎仁、川越尚子、櫻田直克、佐藤明夫、津田麗子

平素、支部のイベントには欠席ばかりの私だが、今回の北海道は期待をもって楽しみに参加させていただいた。

9 月 11 日 (木)

旭川空港に降り立つと懐かしい長谷川前支部長がにこやかに迎えてくださりほっとする。千葉支部から 4 名、北海道支部からは長谷川さんと今回運転をしてくださる中村喜吉さんの総勢 6 名で中村さんの素敵なキャンピングカーに乗り出発。途中地元のおいしいおそば屋さんに立ち寄りまずは北海道の味を堪能する。道々長谷川さんの説明を聞きながら旭山動物園に直行。動物園は期待通り素晴らしいものであった。傾斜を利用した眺望の良い園内は

ウィークデーにもかかわらず、大勢の人たちでにぎわっていた。ペンギン館は 10 種類以上のペンギンさんたちがかわいい目をして私たちを観察していた。アザラシ館は大小取り混ぜて豪快に泳ぎまわっており、北極グマは近くで見るとかなり大きい。オオカミの森では、カナダから来たというケン、メリー、クリスという黒 2 頭、白灰色 1 頭を見ることができた。ニホンオオカミが絶滅してからどのくらいの年月がたったのであろうか。昔オオカミを見たことがあっただろうか。ふと何十年前か前の記憶をたどってみる。

北の果てのこの動物園は、以前は来園者が少なく風前の灯火のようであったと聞いたこと

があったが、今は東京からはるばる飛行機で見学に来る人たちが少なくないとのこと、全国の関係者の視察も多いようである。ユニークで魅力的な企画、しっかりした経営方針があるならばこんなにも蘇り、活気のある動物園になるのだと改めて思った。時間の都合で1時間ぐらいしか見られなかったのは誠に残念。ここは1日居ても飽きない魅力のある園だと思う。

一路、旭岳温泉に向かう。今日の宿泊所である白雲荘に到着すると芳賀孝郎、淳子ご夫妻がすでに来ておられた。ゆったりと温泉に入った後、千葉支部の櫻田さんも加わり、和やかな夕食、懇談会が始まる。今回お世話になった植田さんも見えて落ち着いた中にも楽しいひと時であった。

部屋の窓からはぱっちり明日登るであろう大雪山旭岳が姿を見せて、ますます期待と不安を募らせる。

9月12日

7時に朝食を済ませ、旭岳ロープウェイで姿見駅に着くと小雨が降り出してきた。雨装束を万全に出発したが、間もなくやんでしまった。長谷川リーダーのすぐ後ろについてゆっくりと登る。雨後のうす曇りという願ってもない好条件に恵まれ360度の展望をほしいままにして山頂にたどりつく。リーダーによると20秒遅れとのこと、ほぼ計画通りだった。長谷川さんと中村さんに東西南北の山々を説明していただいた。今回の目的の一つの頂点に立つことができた至福のひと時であった。皆様からアドバイスを受けながら慎重に下り、ロープウェイで降り宿に向かったがまた雨が降り出す。今回は天候も気を使ってくれたようで雨男(誰?)、晴れ女(私)双方に配慮してくれたようで面白かった。大急ぎで白雲荘の温泉を使わせていただき、バスで旭川駅まで行き、列車で札幌に向かう。

札幌では北海道支部の方々が大勢きてくださり、賑やかな懇親会となった。サッポロビールのビール園はとて大きな規模であった。何十組もの客の賑わいとジンギスカンの美味しい匂いが充満して早く到着した私は皆様の見えるのが待ち遠しいくらいだった。東京にはこんな規模の場所があるだろうか？北海道ならではないのかとひそかに思う。津田麗子さんも合流なさって心強く安心する。ジンギスカン焼の美味しいこと、お腹に相談もせずにモリモリ頂いてしまった。こちらの支部の方たちの温かいおもてなしが身にしみて嬉しかった。

支部の皆様にお別れしてタクシーに分乗して芳賀邸に向かう。高級住宅地の一面にあるそのお屋敷は私にとっては理想の夢のようなものだった。千葉のお宅と行ったり来たりをしておられるので、こちらはゆとりのある憩いの場所という感じで素晴らしい家だ。津田さんと2人、ベッドルームを頂いて早々に寝てしまった。よく朝、食事前に散歩をする。緑の多い静かな佇まいの通りを歩きながら昔のお話などをお聞きする。朝食がまたとても美味しかった。地元産のジャガイモ、緑の野菜などをふんだんにつかい、またパンも焼きたてのおいしいものだった。皆さん大満足。朝食後ご自宅から見える大倉山シャンツエまで歩き、ジャンプ台の上までリフトで昇り昔の思い出にひたった。

戻って荷物を持ち、市街地まで1時間ほど歩く。また美味しいお蕎麦の昼食をして、芳賀ご夫妻とお別れし、一路千歳空港に向かった。

今回は北海道支部の皆さまや芳賀ご夫妻にいろいろとお世話になり、おかげさまで大変楽しい優雅な旅をすることができました。いつまでも私の忘れられない記憶となって残ります。ありがとうございました。

(川越尚子)

「軍荼利山」(ぐんだりさん) 山行報告書

実施日:2008年6月1日(日)日帰り

場 所:「軍荼利山」(ぐんだりさん)標高73M「千葉の里山を歩く!! 第5回目」

幹事 :L;篠崎仁 SL;諏訪吉春

参加者:20名(男性17名、女性3名)

三木雄三、後藤三男、遠藤宗男、佐藤明夫、結城純一、竹島正義、山口文嗣、柳下忠義、赤井一隆、篠崎仁、豊倉さと子、小沢けい子、諏訪吉春、芳賀孝郎、吉永英明、(以上会員)

船戸克多郎、船戸治代、渡邊信一、石井健雄、坂本洋一(以上ゲスト)

千葉の里山を歩く企画ですが、今回で早いもので5回目となりました。今回は千葉にお住みの会員の皆さんも、標高僅か73Mのこの山を歩かれた方は少ないものと思いましたが、このコースは洞庭湖の桜の咲く季節がおすすめで、下見をした幹事2名と三木氏の紹介による発案で、帰りに、芥川龍之介ゆかりの宿「一宮館」にて風呂に入り、前回の烏場山・鯨料理に続き、今回も当地の酒と食にこだわる山行としました。今後もこの企画は里山と文化(酒と食が中心)をテーマに行っていきますので初参加者の方を歓迎します。



・上総一ノ宮駅に参加者20名が集合し、今回は所要で不参加の櫻田氏作成の案内図と参加者一覧表を配布。10分で玉前神社に到着。この神社は上総十二社祭りでの勇壮な裸祭り(9月8日～14日に実施)で知られる。開基は平安時代(大同2年:西暦807年)と古く、「玉前神社神楽」は千葉県指定無形文化財、当日は鍛冶職人が参道で鉄製の農耕器具を並

べておりました。そこから、歩いて5分の処にある下見で立ち寄った竹細工の店に立ち寄る。今では珍しいが昭和の香りがする竹製の様々な雑貨・道具類に参加者の興味を惹き、何名の方がお買い物。後藤画伯は帰途の予約をし蕎麦の大箸を所望。ここからは田園地帯に入り、梨畑が点在、途中のお寺、三島山・東漸寺に立ち寄る。入口の案内板に「皇女和宮の籠」が保存されているとの表示有。「なになに、現在、NHKで放映され人気の『篤姫』は第13代将軍の徳川家定氏夫人で孝明天皇の妹・皇女和宮といえ公武合体推進のため、第14代代将軍の徳川家茂に嫁した悲劇の女性だよな、」と記憶力低下著しい古ぼけた頭脳を駆使して、それならば一見の価値有りと判断したのは小生だけではなく全員が見に行く。交渉上手な吉永氏のお陰で件の籠を見せて貰う。あいにく幸か不幸か、寺の住職が所要で不在、この由緒ある寺は開山が慶長17年(西暦1612年)の曹洞宗の名刹である事が後日判明し、禅寺のお坊さん不在の僥倖を噛み締めました。この籠は和宮が京都から江戸に向われた時に使用した正真正銘の物で、何故、この寺にあるかは紙数の関係で書けず興味のある方はお調べ下さい。この後は、下見のコースとは違うなと思いつつも、自信ある足取りの健脚な先頭グループの方々に引率され、ショートカットにて正午前に洞庭湖に到着。ここで、昼食の大休憩。12時半頃に、軍荼利山

方面を目指して湖の西側を緩慢に登り、左折して、右手に一ノ宮カントリークラブの芝生を俯瞰しながら、溜池を過ぎて軍荼利山東浪見寺山門に13時30分に到着。今日の山行で唯一の登りとも思える40メートルの苔生した狭い石の階段を汗をかきながら3度登り、東浪見寺に辿り着く。周囲は鬱蒼とした常緑広葉樹に覆われ、スダジイ、カゴノキ、サカキカズラが自生する自然林。一同ここで記念写真を撮影する。この軍荼利山東浪見寺も開山は平安時代で西暦806年から809年頃と大変古く、この寺にある「木造軍荼利明王立像」は千葉県指定有形文化財となっており、ご覧になりたい方は、毎年1月28日の東浪見寺のお祭りに本尊が公開されます。14時過ぎに、東浪見駅に到着し、坂本氏と別れ、19名が一ノ宮館からの送迎バスに揺られて、芥川龍之介ゆかりの名旅館「一ノ宮館」に到着。女将さんが広い庭園の一角に保存してある「芥川荘」を案内してくださった。普段は内部には入れませんが特別に室内を開放して、著名な作家が使用した文机等を拝見、女将の説明では、芥川はここで

後に夫人となる塚本文さんに恋文を書いた。また、短編「海のほとり」で、この思い出を書いている。芥川はこの旅館に大正3年(1914年)と大正5年の二度訪れている。後に創作の行き詰まりによる苦悩から神経を病み自殺した彼にとり、ここでの避暑生活は生涯忘れがたき楽しい思い出であったものと想像しました。この「芥川荘」は明治30年代に建てられた茅葺の木造平屋建で「国の登録有形文化財」に指定されています。さてその後は、お楽しみの展望風呂で汗を流して、女将さんの好意で地元の日本酒を出して貰い冷で呑む。地元で採れた新鮮な野菜の甘さ、千葉の海の幸による酒の肴でアルコールもすすみ、自己紹介も多いに盛り上がりました。名残惜しくも、宴を終了して、帰りの4時47分の電車に間に合うべく宿の送迎バスに乗り込み、宿を後にしました。最後に、一ノ宮館の女将さん、格安料金にもかかわらず、何から何までお世話頂きありがとうございました。

(諏訪吉春)

千葉支部夏季恒例行事のビールパーティーに参加して

期 日:2008年8月28日(木)

場 所:ホテルニューオータニ幕張「ビアテラス Shell the Garden」

参加者名《会員》

青木一夫 赤井一隆 岩尾富士夫 梅本知榮子 遠藤将一 小沢けい子 後藤三男 櫻田直克 佐藤明夫 塩澤厚 篠崎仁 清水正巳 諏訪吉春 高田春男 高橋正彦 竹島正義 竹花晃 津田麗子 豊倉さと子 波木正司 行方正幸 芳賀淳子 芳賀孝郎 浜口欣一 藤井正善 三木雄三 結城純一 吉永英明

《会友》

大浦陽子 金子有美子 高橋琢子 能美勝博 渡邊信一

去る2008年8月28日午後6時半より、日本山岳会千葉支部主催のビールパーティーが千葉市美浜区幕張地区のホテルニューオータニ「ビアテラス」に於いて開催された。

当日は生憎の雨模様であったが、芳賀顧問御夫妻を初めとして40名程の有志が集まった。ご存知かと思いますが、此処幕張地区一帯は埋め立て地域であり、海浜幕張駅より、

海に向かって右側(北西)は商業地域として、日本の一流企業が競って自社ビルディングを建て、新しい日本のオフィス街としての見事な景観を作り出している。左側は幕張ベイタウンと呼ばれるマンション群が立ち並び、今や8000世帯23000人の一大居住地域となっている。ヨーロッパ風の街並みが人気を呼び、東京近郊住みたい街ベストテンにも選ばれ、多くの外国生活経験者が競って入居している。外国人も多く住み、プロ野球・地元千葉ロッテマリーンズのゴビー・バレンタイン監督やコーチのランペンさんやベニー・シコースキー・オーティズズレータ選手も時折街なかで見かける。

当初は野外ステージにてのフラダンスを鑑賞しながらのパーティーが予定されていたようだが、生憎の雨模様にて、ホテル側のご好意により、パーティー用1室を急遽お借りしての和やかな宴会、そしてにぎやかな談笑が始まり、千葉支部山行の思い出話やらが、あちこち

のテーブルで交わされ、ビアカップを持ってテーブルの周りを歩いたりと楽しいひと時であった。私自身は同じ街にお住まいの芳賀顧問に、今年8月にベイタウンにて実施した富士登山の報告やら都岳連にて以前より顔見知りの青木さん、正月の上高地山研で一緒した諏訪さん達との楽しい話に花が咲きました。



千葉支部の会員の皆様とのんびり千葉の山歩きを楽しみたいと思いますので、よろしくお願いたします。

(波木正司)

分水嶺

和田峠からの道を登って三峰山に上がると、深田久弥に「まさに日本一」と言わしめた美ヶ原の溶岩台地が目飛び込んだ。まさに大展望である。松本盆地はもちろん、ぐるり振り返れば蓼科山、霧ヶ峰、そして諏訪湖…。目指す鉢伏山までは、水平距離で10³だ。

梅雨が空けたのを待ちかねて、歩いてきた。見た目には草尾根の美しい縦走路だが、歩く人がいないのだろう、道が荒れている。藪をかき分けて歩いた。登山者には「嫌われ者」の藪だが、そんな藪が表土の浸食を抑え、尾根筋、山の緑を支えている。「たいしたものだなあー」。今更のように自然の素晴らしさに驚かされる。

山道はしだいに細くなり、踏み跡だけになってしまった。藪が終わると、今度は泥道だ。地図を開く。どうやら萱ノ沢の源頭部まで来た。木々の間から諏訪湖が見えた。この沢の水は、やがて諏訪湖に流れ着くのだ。ニホンジカに

出会った。急な登りとなり、二ツ山に着いた。ササと倒木の山頂でひと休みした。

目指す鉢伏山まであと一歩。いったん下るが、また登り返しだと思うと、少々うんざりだ。がまんして歩くと、ほどなく濃淡のレンゲツツジの大群落。1927mの鉢伏山だ。鉢伏山は、美ヶ原の南東に、扉峠を挟んで南に連なる高ボッチ山とともに皿を伏せたようにそびえる山だ。山頂に祀られた鉢伏明神の祠からは「雨乞い」信仰の歴史がしのばれる。

歩いてきた尾根は、分水嶺だ。山に降った雨水が、太平洋と日本海へと注ぐ水系をへだてる境界線が分水嶺。鉢伏山は天竜川と千曲川水系を分けている。

山の雨は、海へ向かって長い旅を始める。今度は、房総半島の分水嶺を歩いてみたくなった。

(三木 雄三)

『山に祈る』合唱コンサートへのご案内

(財)市川交響楽団協会 市川混声合唱団 副幹事長 大辻康允様より
下記の通りご案内が届きました。

日本山岳会事務局御中

(財)市川交響楽団協会 市川混声合唱団 副幹事長 大辻康允

貴会益々ご清祥の段、お慶び申し上げます。私共、文化都市市川市にて60年間合唱団として地域文化・音楽啓蒙活動をしており、毎年定期演奏会を開催し、意欲的なプログラムに取り組んでまいりました。今年度は山岳愛好家の中で特にご要望の大きい名曲清水脩作曲の合唱組曲「山に祈る」を鋭意取り上げ下記要領にて演奏発表するべく現在猛練習中です。また、朗読には元 NHK アナウンサー(現「LLP ことばの杜」代表)の山根基世さんのご出演を予定しています。つきましては、ご来場可能な地域の貴会の皆様には是非ご来場、ご愛聴いただきたくご案内いたします、

記

日 時:11月16日(日) 午後2時開演(午後1時30分開場)

場 所:市川市文化会館大ホール(JR本八幡駅南口より徒歩10分)

収容人員 1945人

入場無料

大崩と津森山(336m)スイセンロードと湖畔のさくらと里山ハイキング

ハイキングシーズンはスイセン(12月末～1月末)とサクラ(3月末～4月上旬)でしょう。特にスイセンの開花時は大崩バス停付近に売店やみやげ店など大賑わいです。最近関東近県では伊豆の爪木崎、鋸南町のスイセンロードが有名になっています。のどかな山里の雰囲気を楽しめるコースで房総の名峰で双峰の富山が大きく見えます。山頂には木花之開耶姫命、金比羅大権現、浅間大権現の石碑が祀られ、いにしえより庶民の信迎対象として崇められています。富山など南房の山々の展望が見事です。山頂直下のカヤトの原からは嶺岡愛宕山、御殿山、伊予ガ岳、富山が山頂からは嵯峨山鋸山が見渡せます。

日 時: 2008年11月30日(日曜日) 午前9時50分

集合場所: JR内房線保田駅

千葉駅 8:41 発の特急か普通 7:45 に乗ると 9時40分に着きます

歩行時間: 3時間25分 歩行距離 10.5km 2万5000円 金束

コース

JR保田駅→大崩バス停→峠→三差路→津森山→法明分岐→三差路→峠→大崩→佐久間ダム→大崩バス停→保田駅→ばんや→保田駅

忘年ハイキング「大楠山」へのお誘い

三浦半島の大楠山は、東京湾を挟んで千葉の山の展望台。鉄道唱歌に「山は上総か房州か」という一節がありますが、新橋を出発した「陸蒸気」が品川を過ぎたころ、東京湾の向こうに見えたのが鋸山とか鹿野山ではないでしょうか。

江戸時代の文人画家、谷文晁も「日本名山図会」で鋸山や鹿野山を画いていますが、たぶん三浦半島の観音崎あたりからの風景だと想像できます。そんな文晁の視線になって、ふるさと千葉の山を眺めませんか。

日 時:12月21日(日)

集合場所:JR横須賀線の横須賀駅下りホームに午前9時40分総武横須賀線快速を利用してJR千葉駅を7時30分発 あるいはJR東京駅を8時12分に乗ると、横須賀到着は9時40分になります。大楠山の下車駅は横須賀駅から各駅停車に乗り換えて横須賀先の衣笠駅です。お間違いなく。

費 用:ホリデーパス2300円・バス代500円程度です。

なお、東京駅で懇親会も予定しております。

第二回 栃木・茨城・千葉三支部懇談会のお知らせ

第1回三支部合同懇親会は、昨年栃木支部幹事で日光湯元において開催されました。今年は千葉支部が幹事でつぎの通り開催いたします。場所は、今年の千葉支部新年山行で好評だった南房総の「民宿 治郎吉」です。千葉支部は新年会を兼ねた合同懇談会となりますので、多くの会員諸兄姉に参加いただき、栃木・茨城支部の皆さまを歓迎し交流を図りたいと思います。いまからご予定ください。

集合場所、時間など詳細は次号支部だよりに掲載いたします。

期 日:2009年2月7日(土)～8日(日)

場 所:千葉県南房総市「治郎吉」 Tel. 0470-57-2047

「治郎吉」は、岩井海岸の海辺にある伊勢エビ、アワビが自慢の海鮮料理の宿です。

日 程:2月7日 懇親会 2月8日 鋸山ほか

以上

遠藤さんの逝去を悼む

去る9月14日、千葉支部会員の遠藤宗男氏が亡くなられた。68歳であった。9月4日、入院中の市立青葉病院に伺った折は、ご自身で病状を自覚しておられ、「吉永、俺の癌はタチの悪いやつなんだ」と云っておられた。

遠藤さんとは、昭和35年、小生が千葉大山岳部に入部して以来48年間のつき合いで、小生の上級生であったため随分シゴかれた。また、昭和46年には千葉大の第3回のヒマラヤ遠征でネパールに同行し、約4ヶ月間、生活を共にした。

小生は、彼を雑学の大家とヒヤカしのつもりで云っていたが、千葉県技師として奉職中、理学博士となり、特に植物、花に造詣が深かった。

千葉支部には設立時から参加され、集会にも熱心に参加し、楽しみにしておられた。これから人生を楽しもうという年令、早過ぎる別れである。

合掌
(吉永英明)

図書案内



平山善吉著「花の素顔」(技報堂出版)

花の中から一番美しい部分を写したつもりである。前日本山岳会会長で千葉支部の顧問である平山善吉氏が、野に咲く花の魅力を写真と文でまとめたフォト・エッセー「花の素顔」を出版した。千葉県長柄町の自宅「森の家、夢久途山荘」の庭に咲く四季の花々を接写でとらえることで、花の最も美しい顔に迫っている。福寿草、仏の座、チューリップ、蛍袋、カラー、卯の花、野菊、椿、侘助など合わせて95種の花々の写真ひとつひとつに短い文章が添えられている。植物の専門家ではない同氏が花に贈る文章からは、花を愛する素直な気持ちが伝わってくる。(結城 純一)

◎ 会計担当より

会費が未納の方がいますが、納入を忘れていませんか？

もし、払ってないかも・・・？と思われる方は会計の津田までご確認下さい。

● 編集後記

去年、私の娘が生まれ、その3ヵ月後に千葉支部が誕生しました。千葉支部も娘も歩き始めたばかりです。これからの千葉支部の発展と娘の成長が重なるように見えてしまいます。早く大きくなった娘と一緒に千葉支部の企画に参加したいと思う今日この頃です。

(結城 純一)